第三十七回「全日本中学生水の作文コンクール」岐阜県優秀作文集

水について考える

主催　水循環政策本部、国土交通省、岐阜県
後援　文部科学省、厚生労働省、農林水産省、
経済産業省、環境省、
独立行政法人水資源機構、
水の週間実行委員会、全日本中学校長会

「全日本中学生水の作文コンクール」について

「全日本中学生水の作文コンクール」は、次代を担う中学生の皆さんに、暮らしの中で体験している水にまつわる話や、祖父母、両親、先生から学び聞いた話などをもとに、「水」や「今後の水の使い方」について、考えていただこうという趣旨で、「水の週間」の行事の一環として実施しています。

今年は、第三十七回を迎え、岐阜県表彰として最優秀賞一作品及び優秀賞二作品を選定しました。

この三作品について、このたび優秀作文集としてとりまとめました。いずれも中学生の皆さんの真剣な思いが伝わってくる作品です。ぜひ御一読ください。

「第三十七回全日本中学生水の作文コンクール」

一．応募要領　①テーマ…「水について考える」（題名は自由）

②対　象…中学生（中学生と同じ学齢の者を含む。）

③原　稿…四百字詰め原稿用紙四枚以内で日本語により表記されたもの

④あて先…岐阜県都市建築部水資源課（岐阜県内の応募者）

⑤募集締切日…平成二十七年五月十三日（到着分有効）

⑥版権等…○応募作品は個人作品に限る。

○応募作品の版権は国土交通省及び岐阜県に帰属する。

○応募作品は返却しない。

二．応募状況　応募学校数　四校　応募総数　一〇九作品（二年…一〇二作品、三年・・・七作品）

三．審　査　応募作品について岐阜県で審査（地方審査）を行い、岐阜県表彰として最優秀賞一作品、優秀賞二作品を選定。なお、応募のあった七作品は、中央審査対象作文として国土交通省に推薦。

目　次

岐阜県最優秀賞

『清流の国岐阜に生まれて』・・・・・美濃加茂市立東中学校　三年　渡邉　唯里

岐阜県優秀賞

『水を大切に』・・・・・・・・・岐阜市立青山中学校　二年　林　千秋

『自分の地域』・・・・・・・・・岐阜市立青山中学校　二年　河口　結衣

岐阜県最優秀賞

『清流の国　岐阜に生まれて』

美濃加茂市立東中学校
三年　渡邉　唯里

皆さんは、清流と聞いて何を思い浮かべますか。きれいな川？そこを泳ぐ魚たち？私の住んでいる岐阜県には、日本三大清流の一つである長良川が流れていますが、私は、清流と聞いて川ではなく、豊かな森や山、そして、山や水を守る人々を思い浮かべるのです。

私がこう考えるようになったのは、アルプホルンクラブの一員として、二〇一一年に行われた「植樹祭五周年記念大会」そして、翌年に行われた「清流国体式典前演技」に携わったことがきっかけでした。アルプホルンクラブは、間伐材で楽器を作ります。目標は、上手に演奏することですが、目的は、演奏を通して「森林保護や自然の大切さ」をみんなに伝えること。私はこの活動を通して、自らもずっと持っていた疑問を解決しています。

疑問というのは、「清流国体」という名前についてです。岐阜といえば穂高岳を代表とする「高い山々」もあります。昔から「飛騨の山・美濃の水」という意味で、「飛山濃水」の地と呼ばれてきました。なのに、何故「清流」つまり、美濃の水が選ばれたのでしょう。私は、ダム湖の周りでどんぐり等の苗木を植える活動や下流の河川清掃の活動を通し、山や森がどんなに豊かでも、水が流れていく過程で人が汚してしまったら清流ではなくなってしまうことに気付かされました。悲しいことに「山がきれい＝水がきれいである」とはいえない場合もあります。だから、美濃の水が清流であるためには、きれいで豊かな飛騨の山々と、それを守る人々、その山から流れる美濃の水を守る人々の心が必要不可欠です。そして、「水がきれい＝山や森は確実にきれい」といえるのです。そうです。「清流国体」と名付けたのは、清流こそが「飛山濃水」であり自慢だからと答えが出ました。

そしてそれは、私達に、改めて「清流」について考え、これからも守っていこうと語りかけているように感じました。清流の水源は一つの雨粒で、それを山が集めて川が生まれます。山は、川のお母さん、生みの親です。そして、私達人間は、育ての親でなくてはなりません。飛騨の山々で生まれた川は、美濃の水となり、岐阜を巣立ち、海を目指します。そ

の間、私達は、生活用水や田畑の水としての恵みをもらいます。そのお礼に、愛情を持って清流を育む義務があるのです。また、岐阜県には海がありません。だからこそ、海辺のことを考え、清流を海に送り届ける責任があります。私の義務教育は間もなく終わりますが、清流を育てる義務教育は、親世代から受け継ぎ、私達の子ども達の世代につなげていかなければなりません。水は、動物や植物等すべての命を守っています。水や、母なる山を汚すのは人間だけです。地球上の命の責任を担っていることを忘れてはいけません。

私は、岐阜で生まれ岐阜で育ちました。私の故郷は清流があり、自然もいっぱい残っています。これからも、この故郷で暮らしていきたい。そのためには、水を無駄遣いしない、ごみは捨てない等、当たり前のことを当たり前にやることはもちろんですが、自分で守りたいと思うだけではなく、伝え広めていくことが大切です。だから、清流国体という大きな舞台で、山や森の大切さを間伐材で作ったアルプホルンの音色にのせて全国へ送り届けられたことは私の誇りになっています。今年、岐阜県では育樹祭が開催されます。私が植えた苗木たちも立派に育ってほしい。これからも、もっと山や森、水のことを知り、あらゆる機会を通して、同世代の人や子ども達、そして、これから生まれてくる人達にも、「水の義務教育」について発信していきます。

「山は青きふるさと」

「水は清きふるさと」

をずっとずっと残していくために。

ほら、耳をすましてごらん。豊かな森で、また、清流の子ども達が生まれたよ。

岐阜県優秀賞

『水を大切に』

岐阜市立青山中学校
二年　林　千秋

私の住んでいる家の近くには、名水百選にも選ばれている「長良川」がある。しかし、その長良川が今、危機にさらされている。その原因は、長良川にごみを捨てたりして、川が汚れていることだ。家庭内での排出の場合、下水処理場へ行き、人が飲める水へまた生まれ変わる。しかし、川へ直接ごみを流すと、きれいにすることができない。

どうしたら、長良川のきれいな水を保つことができるのだろうか。私は二つのことから考えた。

一つ目は、滋賀県高島市にある、針江地区の方々の努力だ。私は中学一年生で「環境」をテーマにした、総合学習をした。琵琶湖に流れ込む針江大川の周辺に住む、針江地区の方々に会った。針江地区の方々の家には「川端」という、水が湧き出る場所があった。そこに湧き出る水の量は、一日約四百万リットルだ。これは、二万人が一日に使う水の量である。沢山の水が湧き出る川端では、野菜を洗ったり、果物を冷やしたりするために使われていた。針江地区の方々には、川端をきれいに保つために、鯉を放ち、その鯉に皿についたご飯粒などを食べてもらう工夫がされていた。そんな針江地区の方々の姿を見て、きれいな水を保つために、影で努力や工夫をしている人がいることを知った。だから私も、自分が使っている水をきれいにしたいと思った。

二つ目は、雨水を資源として利用することだ。日本の中でも、雨水を資源として利用している所が二つあった。一つは、東京都にある、「両国国技館」だ。そこで使われているトイレの水やエアコンの冷却水、雪をとかすための水に、地下のタンクに貯められた雨水を利用している。

もう一つは、東京都墨田区にある、「路地尊」という、「路地を守るシンボル」と呼ばれる場所がある。路地尊がつくられたきっかけは、路地は地域のコミュニティの場である。その路地が、災害時には、避難路になっている。だから、路地を普段の生活から大切にしていこうという考えから、路地尊ができた。「路地尊」の名前の由来も、「路地を尊ぶ」から来ている。路地尊もまた、両国国技館と同じ仕組みで雨水が貯められている。貯めた雨水を地元の人々が、花の水やりなどの日常的なことから、火事の消火、災害時の飲み水などの緊

急時にも使われている。

墨田区の方々は、私たちが使っていない、雨水を資源として、感謝して、大切に使っている。これほど水を大切にしているのに、私たちはこのまま川を汚し続けていいのだろうか。

では、これ以上、長良川を汚さないために、私たちにもできることは何だろう。私は、針江地区の方々のように、自分たちが使っている水をきれいに保つことが私たちにもできることだと思った。もし、川にごみを捨て続けたら、川がどんどん汚れていってしまう。その水を飲み、病気になってしまうのも現実となるかもしれない。だから私は、ごみはごみ箱以外に捨てないようにして、川をこれ以上汚さないようにしたい。そして美しい長良川を保ち、安心して水が使える生活を目指して、努力したい。

岐阜県優秀賞

『自分の地域』

岐阜市立青山中学校
二年　河口　結衣

みなさんは、身近な「水」を振り返って何を思いつくだろうか。私は、水といえば飲む、家庭での料理、洗濯、風呂、川が思いつく。

私は、総合的な学習の時間で環境について学んだ。滋賀県にある琵琶湖のかつての状況を知った。今の琵琶湖は、魚がたくさんいて、家族で遊びに行くくらいの水のきれいさだ。しかし、かつては第二の水俣と言われたほど工場の汚染水が流れこんでいたり、赤潮や青潮で水がにごっていたりしていたそうだ。そんな状況から抜け出すために動いた、藤井絢子さんのことを知った。リンを使った合成洗剤の使用をやめるために廃油石鹸運動を始め、たくさんの人に広めていった。私は、もし自分の周りの環境にゴミがたくさん落ちていたり、同じような状況になっていることを知っていても、知らないふりをする。自分には何もできない、他の人がやってくれると思い、何もしないと思う。しかし、今の周りの環境を知り、向き合い、人や生き物がくらしやすい環境をつくろうとする藤井さんはすごいと思う。

環境学習旅行のときには、琵琶湖だけではなく、針江地区にも行った。針江地区には、針江大川とよばれるとてもきれいな川が流れている。針江の生水とよばれる二〇〇年もの歳月を経て二十四メートル前後の地下からわき出ている水である。環境省選定の「平成の名水百選」に選ばれているほど美しい水があったりする。針江地区では、川で遊んだり、生水を飲んだりした。川遊びでは、雨が降ったあとなのに水がにごっていなかった。川の中には、ミズカマキリや魚がたくさんいた。生水と水道水を飲み比べると、生水の方がさらっとして喉越しがよく飲みやすかった。私はよく水を飲むので、水道から生水が出てこれは良いと思った。

琵琶湖では、カヤックを体験した。カヤックは初めてで、落ちないかなという不安はあったけれど、すごく楽しかった。

針江での川遊びも、琵琶湖でのカヤックも水がなければできない。わき水の生水も、きれいで飲めるから琵琶湖の周りは、水が豊かできれい。そして、琵琶湖の水は、人々の生活

に必要であり、使われていることを知った。

学習旅行が終わり、自分の地域を振り返り、長良川や鳥羽川が思いついた。私は、小さい頃からボーイスカウトをやっている。小学生の時、長良川の清掃活動をした。その時、川の中に自転車や、空き缶、ペットボトル、お菓子のゴミが落ちていたりするのを思い出した。だから、夏休みの研究で、長良川のことを調査した。昔は、長良川の水は「そのまま飲めた」ということを聞きた。しかし、今は生水のようなわき水は飲めても、川の水は飲もうとは思えない。そこには、人間が出す、家庭の水、さまざまなゴミがあるからだと考える。わき水は、そのまま自分たちのもとへくるので、他の水がまざったり、ゴミにふれることはない。

だったら、「川のゴミを全て拾えば良い」や「他の水とまざらないようにすれば良い」と思う人もいると思う。しかし私は、長良川や鳥羽川のゴミを全て拾うことはできない。ポスターを描いたり、周りにゴミを拾うように呼びかけることもできない。だから私は、今学校でやっているレッツクリーンデーに進んで参加したり、水を無駄使いしないことなど小さなことからはじめていき、少しずつ変えていく。

私は、環境学習や、長良川を調査して、自分の周りの環境は、きれいな所もあれば、人の出すゴミなどで汚れていることが分かった。そして、川が汚れていると、人や生き物にとっても生活がしにくいと考えるようになった。

みなさんも、自分の地域の川を振り返り、一緒に小さな事から始めてみてはどうだろう。